

目指しているもの

実証実験で先進技術を身近に感じてもらい、暮らしのDXを加速する

実施概要 通販購入物とスーパーに注文した食料品をロボットが自動混載して、片道 300m のルート
を配送する。(5 日間の実証で同コースを 18 往復)

実証について

【実証内容】
役場本庁とスーパーを結ぶルート（町有地および私有地）で実施した実証実験。
荷物の積み込み・積み降ろしに人の手を介さないことが特徴。専用のボックスに入った荷物をロボットが自らの機体の中に積み込み、自走して運んだ後、配送先のボックス内に降ろす。配達完了メールを受け取ったユーザーが受け取りに行く。
日本郵便(株)の宅配物とユーザーがスーパーに注文した商品の混載を想定して実施。

【経緯・きっかけ】
過疎高齢化と、中山間地域に位置するため地域交通にも課題。特に町の中心部から離れた場所に居住する高齢者の買い物問題が顕著。
県の事業「ひろしまサンドボックス」に自ら問い合わせ、「中山間地域での新たなラスト 1 マイルインフラの構築」を目指す Yper (株)とマッチングが実現。(株)コムズの協力も得て、2021 年 10 月 24 日～ 29 日に実証実験を行った。

【成功の要因】
Yper (株)、(株)コムズ、北広島町の三者が、早い段階からミーティングを重ね、互いが解決したい課題を共有していたこと。

スーパー経営の(株)コムズには、オンラインサービス提供時のラスト 1 マイルについて課題感があり、町と Yper (株)からの協力依頼を快諾。
候補地の選定や内容についても三者が意見交換をしながら進め、実証の大筋が決定した後、2021 年 6 月に連携協定を締結した。

【地域の反応】
町民参加型のイベントやロボットとのふれあいも企画していたが、コロナ禍で実施できなかったことが残念。
一般町民への公開は差し控えたが、近隣の小学校に呼びかけを行い、実証期間中 40 ～ 50 人の子どもたちが見学に訪れた。
まずは私有地内での実証であったこともあり住民の安心感がよりあった。実証の様子は地域のケーブルテレビで番組を制作して放送した。



実証を見学した子どもたち。自動走行でモノを運ぶロボットに感激

連携企業や自治体のそれぞれの主な役割

Yper 社	ロボットの機体の提供・サービスの実施
株式会社コムズ	配送する商品の提供、私有地の提供 ※株式会社コムズは地元ショッピングセンター（フレスタサックス店）を運営している企業
北広島町	地域の理解・所管行政機関との調整・実証実験場所 / 町有地の提供・モニターの協力

自治体概要			
■ 担当部署：広島県北広島町 総務課 DX チーム	■ 代表電話：0826-72-2111		
■ 〒 731-1595 広島県山県郡北広島町有田 1234 番地	■ URL：https://www.town.kitahiroshima.lg.jp/		

実証フロー

- 【自治体が主で実施した関係機関への説明・調整等】**
 - 「ひろしまサンドボックス」に、北広島町の地域課題と合致したプロジェクトの紹介を依頼し、Yper (株)とマッチング
 - (株)コムズに協力を依頼
 - 買い物の実態・意識調査のため、町民および運送業者にアンケートを実施
 - 地元郵便局との打ち合わせ
 - 公道実証ではないため道路関係の許可申請は発生せず
 - モニター事後アンケートの実施
- 【住民への周知と理解】**
 - 広報誌で町民に周知
 - 地域のケーブルテレビで実証実験の様子を放送
 - 小学生を見学に招待
- 【実証の協力】**
 - 自動配送ロボット実証実験に係る三者連携協定 — 北広島町、Yper (株)、(株)コムズ
 - 日本郵便(株)本社および地元郵便局
 - 地域のケーブルテレビ局（番組制作、放送）
 - 町役場職員からモニター 20 名を募集

		企業	自治体
実証地の決定	①	実証希望の自治体へ打診	
	②		①の企業からの打診を受け、自治体内での実証可否や実証可能場所等の協議
実証の手続き等	③	②の自治体から実証可能場所等をの提案を踏まえ、具体の実証計画案の作成→自治体へ実証内容の提案	
	④		③の企業からの実証計画案を受け、実証に向け自治体内調整
実証への地域や住民の理解	⑤	地元警察への事前説明（実証実験概要の提出）	
	⑥	役場周辺の町施設内の走行のため、特に自治会への周知は発生なし	所管関係行政機関へ実証内容の説明及び調整等
実証	⑦		実証地域の住民へ実証実施の周知と理解の醸成
	⑧	地元警察の担当者が実機、走行ルートの試験走行及び安全管理体制を確認	
実証	⑨	実証	実証の協力
実証の評価検証	⑩	実証参加者へアンケートの実施	

他自治体へのメッセージ

住民の暮らしの DX 推進は、行政の力だけでは難しい。民間企業、大学、研究機関等の力を借りながらやっていかなければ、なかなか前に進まないと思う。実証実験にチャレンジしたいけれど費用の問題などで二の足を踏んでいる自治体も多いと思うので、国や県の事業に参画することや、自ら営業をかけてみることも一手。北広島町も、今後ひろしまサンドボックスの別事業等があれば、ぜひまた一緒に取り組みたいと思っている。